〇〇年○月○日

令和　年度　スマート農業技術設備等導入支援事業　事前審査申込書

令和　年度スマート農業技術設備等導入支援事業について、私（　氏　名　）は、次の補助に対する事前審査を申し込みます。

１　申込む補助の種類（チェックをお願いします）

□　環境測定装置（　　　　　　　　　　　　）

　　　測定項目（日射量・温度・CO₂・湿度・土壌環境（水分量、EC等）・その他（　　　　　））

　☑　高度な環境制御による栽培施設システムの導入（㈱○○　□□（メーカー、商品名、型番等））

　□　環境制御機器（　　　　　　　　　　　　）

　　・すでに導入している環境測定装置（　　　　　　　　　　　　）

　　　測定項目（日射量・温度・CO₂・湿度・土壌環境（水分量、EC等）・その他（　　　　　））

※細霧冷房装置の場合は記入の必要なし

□　ロボット技術等を活用した機械の導入（　　　　　　　　　　　　）

　□　ICT等を活用した販売支援システムの導入補助（　　　　　　　　　　　　）

　□　その他（　　　　　　　　　　　　）

２　添付書類

　　☑　事業計画書

　　☑　別紙

　　☑　参考見積書の写

　　☑　カタログ等の写し

　　☑　実施場所が分かる位置図

　３　過去の補助事業の実施

　　　これまでに、農業振興に関する補助事業を受けたことが、☑ある　　□ない。

　　これまでに受けた補助事業の内容

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 補助者 | 時期 | 内容 | 補助額 | その他 |
| １ | 国・県・市・その他 | H23.9 | トラクター | ○○○，○○○円 |  |
| ２ | 国・県・市・その他 | H30.9 | 環境測定装置 | ○○○，○○○円 | 添付資料参照（○号棟に設置） |
| ３ | 国・県・市・その他 |  |  |  |  |

※スマート農業技術設備等導入支援事業に限らず、ご記入ください。

※過去に今回の申込みと同様の設備等を導入している場合は、その仕様及び導入地の位置図を添付してください。

※表が足りない場合は、別に記載してください。

令和　年度　スマート農業技術設備等導入支援事業　事前審査申込

事業計画書（高度な環境制御システムの例）

|  |  |
| --- | --- |
| 補助事業の種類 | 高度な環境制御による栽培施設システムの導入補助 |
| 事業の実施場所及び面積 | 横浜市○○区○○町567　480㎡ |
| 計画事業量 | 養液栽培システムの更新（○○式から○○式へ変更）  　・栽培ベッドの更新設置  　・新規センサーの導入（センサーの種類）  　・環境制御システム（商品名○○）設置 |
| 計画事業費 | ○○○、○○○円 |
| 事業導入する営農内容 | 温室（トマト・葉菜類）の栽培  ※別紙に詳細を記載 |
| 事業導入により得られる（予想）効果 | ○○養液栽培システムを導入することにより、肥料バランスの安定が今までより図られる。また、センサーの項目を増やし、リアルタイムで計測することにより、これまでよりもこまめに対応してトマトに適した環境を作り出し、生育が安定することにより、収量が増加する。 |
| 補助事業の着手及び  完了の予定期日 | 着手予定　令和　年11月○日　又は補助金交付決定日以降  完了予定　令和　年２月○日 |
| 摘要 |  |

（別紙）

１　事業導入する営農内容

（１）年間スケジュール

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ | 10 | 11 | 12 | １ | ２ | ３ |
| 促成長期トマト栽培 |  |  |  |  | ・購入苗の  定植 | × |  |  | ・収穫 |  |  |  |

（２）導入予定の設備等の特長

①基本スペック

　　②他のシステムとの違い（先進性・メリットなど）

（３）導入予定の設備等を選定した理由

・○○の課題があり、本システムの□□が、○○に合うシステムであったため。

（４）事業導入により解決が期待される課題

　　・これまでは経験による勘に頼って、トマトに必要な温度・湿度の設定を設定し、栽培してきたため、安定した栽培が難しかった。

事業で導入するシステムを活用することにより、計測項目が増えて、計測もリアルタイムになるため、トマトの生長にとって、よりふさわしい環境をつくることができるようになり、生長が安定して、収量の増加が見込まれる。

（５）事業導入後に行う記録の方法

　　①温度、湿度等の環境に関する記録

　　　例１）温度計・湿度計を人が見て記録。

　　　例２）温度・湿度・CO2濃度・光量について、センサーを持っており、パソコンとつないでリアルタイムでの記録が可能。

　　②生育等に関する記録

　　　例１)生産履歴記帳、出荷伝票（収量）による記録。

　　③作業効率等に関する記録

　　　例１)作業日誌（播種日・定植日・肥料・収穫開始・収穫終了・片づけ・消毒）

　　④その他の関連事項に関する記録